

令和5年度 第3回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和6年(2024年)1月31日(水)
15:00~16:30

場所：教育センター 2階 中研修室

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶（田口教育次長）
- 3 事務局説明（坂本主任主事） 「R5モデル校の取組紹介」
- 4 議事
 - (1) 事務局説明（高橋指導主事）「小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査について」
 - (2) 質疑
 - (3) 協議 意見交換
「小中一貫教育や小中連携教育の取組及び来年度に取り組みたいことについて」

(2) 質疑	
岡村座長	調査結果に関して質問、ご意見等をいただきたい。
榎木委員	この資料では何が課題なのかが分からない。天明中学校区は目指す姿を決め、その成果指標を作っている。2年後には熊本市の約半分が小中一貫校になる。各校区で重点を置いている部分が違うのに、共通項目で調査し一貫校と連携校で比較をしても、それは活用できない。各中学校区がどんな取組をしているかを問う内容でよいのではないか。各中学校区の取組の成果を見るため、各中学校区内で学校評価に共通の項目を入れるとよい。全体的な課題を共有するようなアンケートの方がありがたい。この結果を出す作業は、大変な労力がかかっていると思う。
事務局	アンケート項目の内容については課題を感じている。今の調査は、小中一貫教育の取組の進捗状況とその効果に焦点を当てており、小中一貫教育の中身についての分析をする段階に入っていない。ご意見を踏まえ、指導課で検討したい。
榎木委員	この調査結果をどこに活かすかが見つからない。それぞれの中学校区で、重点的に取り組みたいことがある。各中学校区の取組を聞くアンケートを取った方が、先生たちに小中一貫教育の成果を示せる。
岡村座長	現在のアンケート項目は広く浅いものであり、これから小中一貫教育を始めていく自治体が、そのメリットを知るための内容である。これを20年続けても意味がないので、内容の絞り方について検討していく必要がある。
(3) 協議 意見交換	
岡村座長	この第3回の懇談会では、小中一貫教育・小中連携教育のこれまでの取組、及び来年度に取り組みたいこと、そしてこれからの展望について、それぞれの委員の方々のアイディア、ご意見をいただければと思う。
西川委員	<p>江原中学校区が小中一貫教育のモデル校になってから3年目になる。</p> <p>やはり小中一貫教育のよさをどう伝えていくのかということが、持続可能な取組になると考える。例えば本荘小の保護者の方々が、「そうか、江原中学校区は、小中一貫教育があって、よくなったのだ。」と喜んでいただくことが一番大事。</p> <p>そのために本校区は今年度、自己肯定感を向上させ育てるための9年間の人権教育に取り組んでいる。そのカリキュラムの中で次のような取組をしてきた。</p> <p>まず、「わくわく集会」というこどもフォーラムを実施した。全校児童が体育</p>

	<p>館に集まり、各グループに分かれて、20年前の先輩たちが作った本荘小人権宣言を今の本荘小のこどもたちが見直す取組をした。</p> <p>そこに江原中校長、各自治会長や人権教育指導室長等にも来校いただき、大人もこどもたちと交流しながら集会をした。地域や保護者の方々が小中一貫・連携カリキュラムの中でのこどもたちの育ちを見ていただく場面を公開できた。</p> <p>次に、1月24日にそのカリキュラムマネジメントについて研究モデル校発表会を開催した。本校を入れると200人を超える研究会になった。その中で、9年間のカリキュラムをもとに作った授業、こども理解をベースにした授業を公開し、こどもたちの育ちを公開することができた。</p> <p>3校がこのような公開授業をローテーションで行うことで、各学校の教育課題や実践の共有ができる。小中一貫教育は、こどもたち自身の学びや成長に繋がらなければならない。</p> <p>来年度は、中学校と小学校が合同でこどもフォーラムを実施したい。</p>
川上委員	<p>本年度、学習面では、小学校と中学校で「めあてとふり返り」の授業実践、生活面では、無言掃除と自分から挨拶ということを、共通して取り組んできた。</p> <p>高学年では5、6年生の学年内で交換授業を行っている。</p> <p>また、中学校区内での情報共有は来年度以降も続けていきたい。現在、そのために小中連携カリキュラムの修正をしている。来年度始めまでに修正案を作り、1回目の幼小中連携の日に部会ごとに確認できれば、職員にこのカリキュラムの内容を周知でき、意識してこどもたちに接することができる。</p> <p>それから、この小中連携カリキュラムに、本校区の場合は保育園が入っていないが、保育園との連携も必要だと考える。今年の1年生の実態把握に関して課題があったため、今年度はすべての保育園の先生から話を聞き、職員がこどもを実際に見せていただいて、できるだけスムーズに1年生入学につなげるということを始めた。先ほど紹介があった夏休み中に訪問するという案も含めて、職員と話し合いたい。</p>
岡村座長	<p>小中一貫教育の一番の目的は、こども同士が9年間を見通すということ。9年間でこどもたちの関係性ができていくことは当然だが、それは小学校と中学校の先生方の関係性が深まることで、より促進される。そこにはこれからも力を入れていただきたい。保育園の訪問も大切なため、その子に対して継続的な情報交換を続けていただきたい。</p>
村上委員	<p>本校は小中一貫教育に3年間取り組み、今年度から小中一貫校である。令和3年度は小中一貫教育の目標を設定し、小中一貫カリキュラムに関しては、算数・数学、総合的な学習の時間と人権教育の3つを作成している。</p> <p>令和4年度は、小中一貫のグランドデザインやカリキュラムを作成し、それをもとに公開授業をした。今年度は3校合同の引き渡し訓練や2校合同の水泳授業、特別支援学級の合同見学旅行を実施している。</p> <p>乗り入れ授業は3月に実施する予定である。今年度は、令和元年度にあった「きらめきプラン」を今の時代に即したものに作り変え、これを今後、各家庭や地域の自治会長等に配付し、9年間で小中が連携してこどもたちの育成に取り組むことを感じてもらえるようにする。</p> <p>来年度は、学力の基礎となる国語を核とした小中一貫カリキュラムを作成する。国語の資質・能力で何が必要なのか、小中で何を共通に伸ばしていくのか、それが各教科等にどう波及していくのかを話し合った。その小中一貫カリキュラムについて、令和6年度の第1回幼小中連携の日に、具体的な学年ごとの目標を立てることにしている。</p> <p>昨日の幼小中連携の日のグループ討議を経て、職員同士で令和6年度の方向性が共有できた。</p>
前田委員	<p>「きらめきプラン」というのは、どこが主体になって、どういった人たちがどれ</p>

村上委員	<p>ぐらい集まって作られているか。また、それを集約されているのはどなたか。</p> <p>この令和元年度の「きらめきプラン」の母体は把握していないが、それを基に、幼小中連携の日に各部会に割り当てて修正した。</p> <p>集約は、3校の校長がした。2つの園の園長先生方にも検討していただくように依頼した。</p>
岡村座長	<p>非常に貴重な意見。集約については、外部コーディネーターがいればお願いするが、そうでない場合は、校長先生のリーダーシップが必要。</p> <p>以前、カリキュラムマネジメント専門の先生から、生徒へのカリキュラムマップの公開は大切だとお聞きした。生徒への公開によって、おそらく矛盾も見えてくると思う。最初にたたき台を作るとき、完璧なものを出さなくとも、常時修正をしていけばよい。また、意見の集約の際は、全員が納得できるラインを作っていく、「選ぶ」のではなく、「作る」というイメージで対話を続けていくと、決めやすいと思う。</p>
安井委員	<p>富合中学校区は、本年度、児童生徒の交流と兼務授業、職員合同研修、情報交換、そして今年は懇親会までできた。</p> <p>児童生徒の交流では、夏休みの小学校3年生と中学校2年生の交流学習会や、11月の6年生による中学校合唱コンクールのリハーサル見学ができた。今後は2月20日の富合学習発表会が控えている。これで2回目だが、小学校、中学校で、昨年から取り組んでいる、総合的な学習の時間を中心にした学びの発表会を実施するという部分が充実している。</p> <p>小中合同の取組では、情報教育の部分も加味して、メディアコントロールの部分を行った。学校保健委員会を中心として、体を動かす部分に焦点をあて、先日は小中で簡単にできるエクササイズの提案をしたり、医学療法士の方に小中学校で同じ話をさせていただいたり、それを家庭や学校でも実践するという取組をした。</p> <p>地域と幼保小中合同で4年ぶりに教育懇話会を実施できた。今、小中学校で「挨拶」に一生懸命取り組むという共通課題があるが、その辺りも地域の中に浸透してきた。学校評議員会でも、「挨拶」という共通のテーマで話ができて、今年度はそのよさを感じた。来年度は、児童生徒の交流活動がどんな力に繋がるのかを再度見直し、活動ありきではなく、こどもたちが主体的に動いていくための方法について考えることが課題として挙げた。</p> <p>昨年度、職員合同研修については、総合的な学習の時間に取り組んだが、今年度はしていなかった。先生方から、総合的な学習の時間の取組は互いに共有したいという声が上がってきている。そこで、総合的な学習の時間は、次年度の合同研修の中に入れることと、話し合いの中で、小中学校それぞれの学習面での課題が多く出てきたため、そのような部分も共通課題を持って取り組むべきだという意見が聞かれた。</p> <p>先日、公民館やアスパル富合の福祉関係の方が来校され、来年度から私達もより学びの場に関わっていききたいという話をされた。これは総合的な学習の時間の取組の成果と考え、来年度は学びの中に地域を巻き込んでいきたい。</p>
岡村座長	<p>1小1中の強みが出ている。活動の振り返りは大切である。どこかのタイミングで活動を振り返るということは今後も大切にしていきたい。学校がより地域に開かれて、継続的に地域の方が来てくださるような状況は望ましい。どんな結果になり、どのようなこどもの伸びに繋がったかを今後教えていただきたい。</p>
榎木委員	<p>天明中学校区は、義務教育学校になるということで、教育委員会からとてもサポートしていただいている。指導課や教育改革推進課から定期的に見に来てもらえ、地域の会議も一緒に進めてもらうので、先生たちも、「やらないといけない」という思いになっている。その点、他の地域の職員は最初の動き出しは難し</p>

	<p>いが、天明校区は進めやすいと感じる。</p> <p>昨年度から小中一貫校になり、9年間で捉えようと職員に言っている。9年間の目標を5校共通の学校教育目標として設定し、それぞれの学校独自の目標は、サブ目標にしてほしいということで共通理解している。9年間の出口である中学校3年生の姿が天明校区のこどもたちの課題と捉え、そこからみんなで身に付けさせたい資質・能力を考えていったのが、小中合同会議である。その毎月の定期的な合同会議の中で、つけたい力が10個になり、それを成果指標としてこどもたちに定期的にアンケートで聞いている。そのアンケートについて、基本的には熊本市が目指すこども像と重なってくる。やはり主体的な学びになってくる。天明校区の特色は様々あるが、中心は「自立した学び」である。主体的な学びと探究的な学びが混ざり合ったようなものである。教員がそれを自分ごと化することが目標である。</p> <p>昨日の幼小中連携の日では、各小中学校の研究部長から、授業の反省会ではなく、その授業の理論について、どこで主体的な学びを作る工夫があったのかということを発表した。このような方法論の部分でも小中一貫教育で取り組んでいきたい。</p> <p>課題は、地域を巻き込んで学習活動を行うこと。それにより、学習活動に関わった大人が、もっと小中一貫教育を身近に感じて理解できると思う。</p>
岡村座長	<p>天明校区が行われていることが今後のモデルになると思う。ぜひ教育委員会でも、成果指標の検討等もお願いしたい。</p>
前田委員	<p>新しいものを作るのではなく、できるだけ今あるものを活用し、どう意識を変えてやっていくかということが課題である。小学校5年生が3学期に学年行事で地域の伝統を学ぶ学習があるが、校区には伝統工芸館があるので、これを中学校に上がってくるまでに通過してきてほしい。</p> <p>小学校6年生の外国語では、最後に「中学校に行ったら何をやる？」という授業になっている。それをZoomで繋ぎながら、みんな一斉に授業をして、中学校に上がっていけるようにと言われていた。</p> <p>この会を通して、様々な校区で教頭会が行われていることを知ったので、本校区でも教頭会を作った。2月15日が新生生の体験入学で、中学生がやっている授業を小学生が授業参観に来て、さらに授業で発表したり、球技を一緒に楽しんだりしながら、授業参加もできるようにし、中1ギャップの軽減に繋げようということになっている。</p> <p>来年度に向けて継続的に取り組んでいきたいことは、PTA会長を中心に、ボランティア活動や地域のお祭りに、小・中学生とおじいちゃん、おばあちゃんたちが一緒になって活動できる日をできるだけ多く作ることである。「中学生ってすごいんだ」とか、「地域のおじいちゃん、おばあちゃんこんなことやってくれていたんだ」というようなことを、体験しながら、楽しみながらでき、さらにそれが最終的には地域づくりに貢献できるものにしていくということに取り組んでいるところである。</p> <p>本校ではPTAの役員が作っておられた「さわやか推進事業」で、花いっぱい運動と地域の清掃活動を行っている。こどもたちが主体となって計画をして、こども同士で様々なことをレクチャーし合いながら、小学校も合流して一緒に花植えができないか等を、先日の会議で提案した。これも中1ギャップの解消に繋がるし、小学校のこどもたちが1ヶ所に集まってくるので、小学生同士も繋がることができる。やってみる価値はあると思う。中学生の自尊感情の高まりにも繋がると思う。</p> <p>最後に、中学校の合唱コンクールの様子をライブ配信し、地域の人たちや小学生に届けられたらと思っている。少しずつ小学生同士も繋がって、小中学生の距離も縮めていけるよう、頑張っているところである。</p>
村上委員	<p>地域の祭りや「さわやか推進事業」は、平日ではないのではと思うが、職員の</p>

前田委員	<p>参加はどのようにしているか。</p> <p>お祭りの手伝いや片付けは、ボランティアで希望参加。教職員は3分の1程度の参加だったが、できるだけ職員も参加をするスタンスは崩さずに実践できた。</p> <p>花いっぱい運動は土曜日、日曜日の開催だった。だが、こども主体にするため、土日はやめさせてもらった。PTAの役員は、平日と休日どちらの作業に来るかは選べるようにした。学校では当日、ボランティアに来てくださった他の保護者の方と一緒にこどもたちが作業するように分け、教職員側があまり無理なくできた。</p>
村上委員	<p>私が以前勤めていた学校は、「さわやか推進事業」を中学校の学校行事にし、生徒が参加をしたことがあったが、小学校はそこを授業日にすることは難しいと思う。</p>
前田委員	<p>小学校でも花植えをされていたそうなので、それをこの日に当て、行事は増やさないという状態である。</p>
岡村座長	<p>「今あるもので」という取組の姿勢はものすごく大切なこと。また、校区の教頭会の設立など、この懇談会で得たことが活かされ非常にありがたい。</p> <p>合唱コンクールなどは、とても効果的だ。中学校の合唱コンクールであれば小学6年生から見たときに明確に憧れられ、このような成長があるんだという部分が見える。</p>
郷委員	<p>小中一貫教育や小中連携教育の大事なポイントは、こどもがやりたいとか、先生たちがやってよかったという印象を持つのが一番ではないか。二つの取組の成果と課題について話をする。</p> <p>一つ目は、小中で集まって代表者と話し合いをすることも会議を定期的に行った。その中で、小中合同の歌を作ろうということになった。</p> <p>こどもたちが考えたことが実際、具体的な形となって、それを披露する場があり、地域や保護者の方々に伝わり、小中一貫教育の取組が認識されやすい活動を目指している。しかし、時間や予算等の様々な課題はある。</p> <p>二つ目は校内研修。芳野中学校区は、小中で合同の研究テーマを設定し実践している。ただし、以前から研究授業自体は昔ながらの授業参観、情報交換になっていたため、今年は、「総合的な学習の時間で作ったら、小学校も中学校も教科は一緒だから両方見られる。」という話をした。小学校3年生の総合が、「芳野を知る」というのが目標で、中3は、「芳野の良さを発信する」というのが目標である。そこで中学校3年生の授業研で、「芳野のフルーツを生かしたスイーツ作りをしたい。」という話が出たので、それを実際にやった。その授業研のときに、小学校3年生のこどもや小中の先生方に入ってもらい、初めて小中一体となり、同じベクトルで授業研ができた。先生たちも、達成感があつたのではないかな。このような取組を繰り返すことが大切だと思う。</p> <p>ただ、一つ課題が出て、研究テーマを次年度どうするかということで、今年の研究テーマは「喋りたくなるような授業づくり」という大きなテーマ1個だった。次年度は、小学校と中学校でサブテーマを変えるということになり、今、それを設定しているというところである。</p>
岡村座長	<p>ぜひ、どのような歌ができたか楽しみにしたいところである。間違いなく一つのシンボルになっていくと思う。</p>
中釜委員	<p>今日、皆さんからお話を聞かせていただき、これらのいい取組を保護者の方はいくら知っているのかと思う。私の託麻東小学校は、二岡中と1小1中で、小中一貫が始まるというのは聞いたことがあったが、具体的にどういったものをされるのかというのは深く知ることができなかった。こういう場にいるからこの</p>

	<p>ような取組が行われているというのは知ることができる。先ほど学校だよりを活用した情報発信の話があった。保護者も知る努力をしないといけないと思うが、情報の発信も大事だと思う。</p> <p>保育園等の訪問については、どういう子どもが入学してくるのか前もってわかっていたら先生方も対応がしやすいのではないかと思います。</p>
岡村座長	<p>本当に情報発信は、やって損することはない。児童生徒に対しても、保護者に対しても、地域の方に対しても、どんどん発信していただければと思う。それが結果的におそらくその学校の教育活動の理解に繋がって、地域との連携、学習意欲の向上等々、なかなか目に見えない形ではあると思うが、じわりと高まりが来ると思うので、ぜひどんどんと情報発信してほしい。</p>
高梨委員	<p>いろいろ取組を聞いて、PTA 側として率直に思ったことは、先生と保護者、保護者同士の連携、協力がうまくいって、地域とも連携することによって、学校教育や家庭教育、社会教育がうまくいくと思う。我々が足を引っ張らないようにして、学校側と子どもたちがうまくいけばいいなと思った。</p>
岡村座長	<p>この小中一貫教育というのは、小学校と中学校だが、当然元々は幼小中という形であるし、それは地域で子どもを育てるということにも繋がっていく。これを皮切りに、小中さえ繋がっていればではなく、中学校と高校の連携等々も意識しながら、様々なところとアンテナを繋ぎながら教育活動が進めていければいいなと思う。</p> <p>一つだけ私から言わせていただくと、子どもたちからのアイデアが出た時に、ぜひ先生方で支えていただけると、子どもたちも、もっともっと生き生きとしてくるのではと思う。</p>
田口次長	<p>私も常日頃、「開かれた学校」ということで、やはり学校というのは、どういうふうに関わるのか、保護者に関わるのかを考えなければいけないと思っている。子どもたちが地域の中で過ごしているので、子どもたちを地域の中で、見守っていただく、育てていただくというためには、学校だけで閉じこもっていてもしょうがないといつも思っている。保護者の方や地域の方に子どもたちの活動をより一層見ていただくということ。そして義務教育だけでなく、子どもたちがその地域の中で育っていく様子を、地域の方にしっかり見ていただくために、やはり発信していくことと、子どもたちが地域に関わる場面を作ることだと思うので、様々な今回の取組の中にも示されていたことも含めて、小中一貫の取組がさらに進めばと思っている。</p>
須佐美部長	<p>コロナが収束し、これからいろいろできるので、連携を進めていくには、やはり一緒に同じことをやるとか、対面で子どもたち同士であったり、先生たち同士だったり、地域の方と、一緒に過ごす時間とか、対話する時間をしっかり持って進めることが大事なキーワードになるということをお話を聞いて思った。幼稚園の子どもたちの支援に教育の原点があるような気がする。連携は就学前のところから繋がっていければと思った。</p>
岡村座長	<p>それでは意見交換を終了し、事務局に司会をお返しする。</p>

5 事務連絡

6 閉会